

授業概要

科目名	言語発達障害治療学					授業の種類	演習	講師名				
授業回数	15	回	時間数	30	時間	2	単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2	通年
【授業の目的・ねらい】 VTR評価と実践的なかわりを通して、現場に近い形で評価を行う力を身につけることができる。												
【実務者経験】 ・岡山かなりや学園、まな星クリニックにて言語聴覚士として小児の聴覚障害および発達障害分野の療育に従事 ・言語聴覚士として半田中央病院に勤務し、成人分野の急性期から慢性期までのリハビリに従事												
【授業全体の内容の概要】 学内での小児セラピーへの参加を通して児との接し方や言語療法の実際を体験的に学び、観察・評価・目標設定などについて基本的な知識と技術を身につける。												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 対象児を観察する力が身につく、基本的な評価が行える。 対象児への適切な関わりの知識と技術が身につく。												
回数	講義内容										準備物(教材)	
1	小児セラピー参加にあたっての心構え(情報管理・守秘義務・身だしなみ含む)を理解できる										身だしなみチェックリスト	
2	小児セラピーの基本的な流れについて理解し、準備ができる										教科書	
3	対象児をVTRで観察し、児の大まかな特性や発達課題等を見つけることができる										教科書	
4	対象児の特性や発達課題を捉えた記録ができる										教科書	
5	対象児に対してグループでインテーク・評価を行える										教科書	
6	インテークおよび評価内容の記録ができる										教科書	
7	対象児に対してグループでインテーク・評価を行える										教科書	
8	インテークおよび評価内容の記録ができる										教科書	
9	対象児の特性や発達課題に即した評価の選定と実施ができる										教科書	
10	実施した評価・検査について、対象児の生活背景等を考慮した解釈・考察ができる										教科書	
11	対象児に対してグループで評価を行える										教科書	
12	評価内容の記録および対象児の生活背景等を考慮した解釈・考察ができる										教科書	
13	対象児に対してグループで評価を行える										教科書	
14	評価内容の記録および対象児の生活背景等を考慮した解釈・考察ができる										教科書	
15	まとめ										教科書	
	定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 『標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版』医学書院 『言語聴覚士のための臨床実習テキスト 小児編』建帛社												
【準備学習・時間外学習】 小児関係の講義内容を復習しておくこと。（主に定型発達の理解と臨床場面で使用する検査について）												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】												
試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施し、60点以上の場合に科目を認定する。												